

Challenge to establish sustainable mobility ecosystem -Academic collaboration and practice-

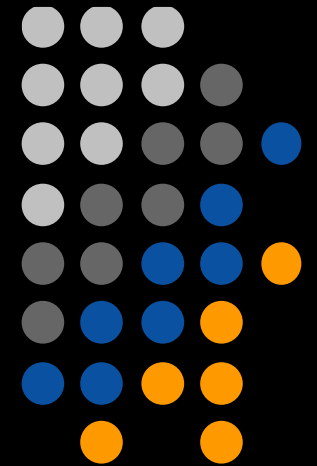


教授 須田義大

東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構長

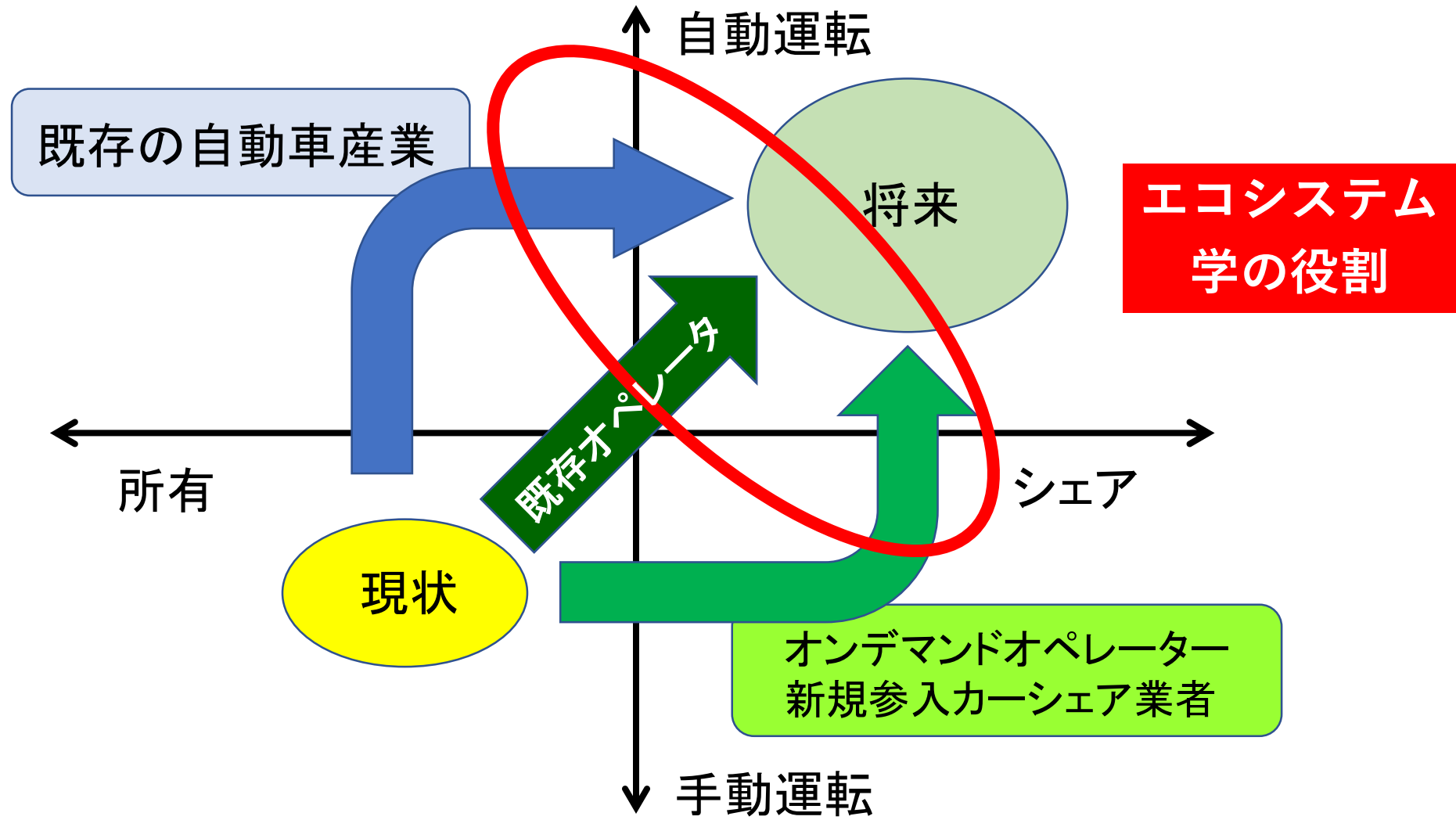
東京大学生産技術研究所

次世代モビリティ研究センター (ITSセンター)



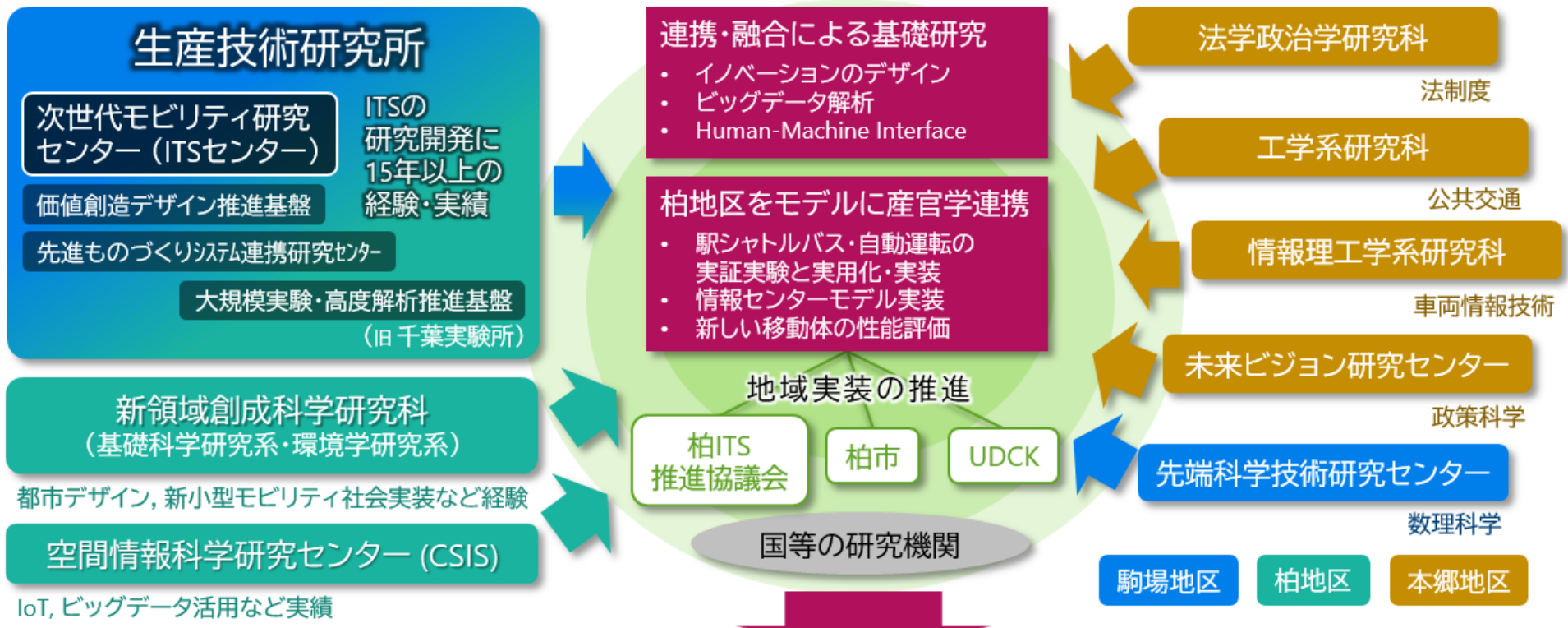
東京大学
生産技術研究所
Institute of Industrial Science,
The University of Tokyo

モビリティ・オペレーションの変革





東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構 (UTmobI)



- 柏地区の経験を踏まえたモビリティ・イノベーションの**国内外の推進** (国内研究機関の連絡会, 国際連携)
- モビリティ・イノベーションを担う**若手人材育成と社会還元活動** (アイデアソン・ハッカソンなど)

学術研究の単なる社会還元を超えた**実社会と真に連携した学術研究モデルの創出**

モビリティ・イノベーションに資する**知の体系化と地域社会実装**





ITS R&R フィールド (生研附属大規模実験高度解析推進基盤: LEAP)



次世代モビリティ研究設備 東京大学生産技術研究所 (柏地区)
Advanced Mobility Research Facilities Institute of Industrial Science, UTokyo (Kashiwa Campus)

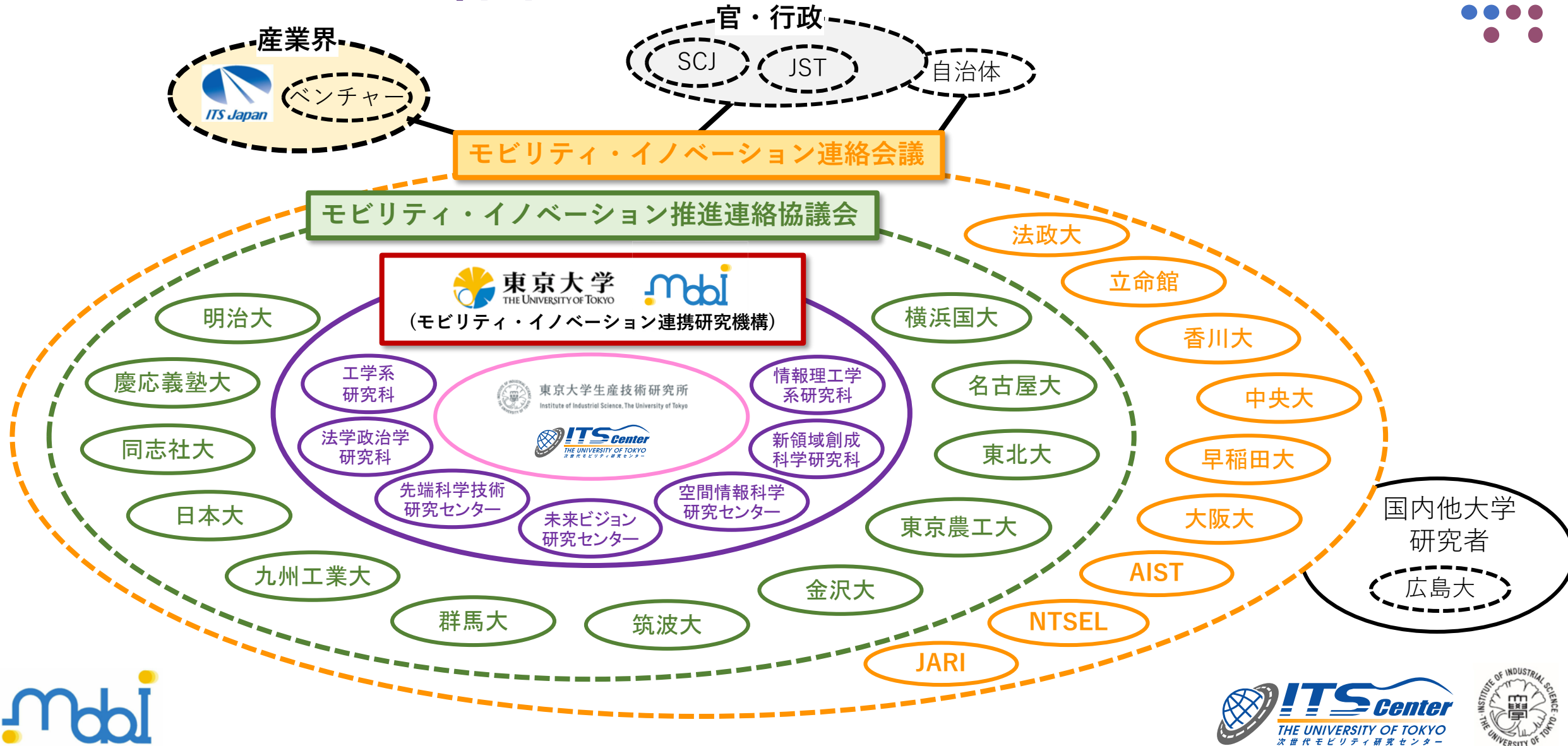


自動運転ベンチャーによる活用

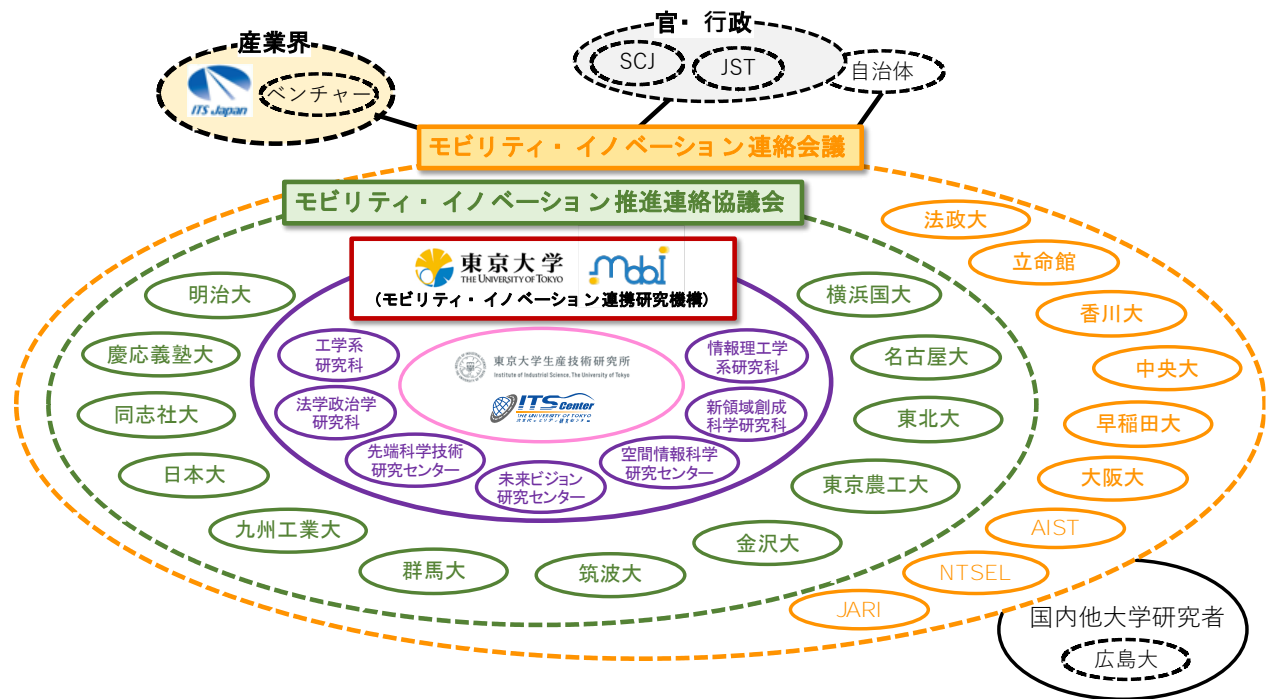
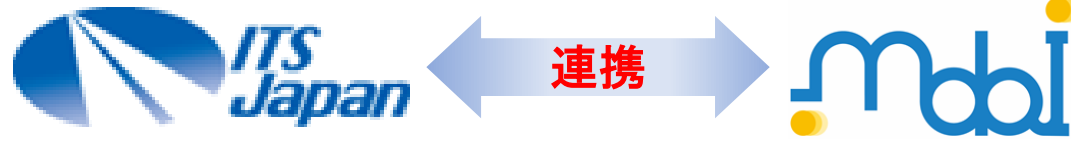
(2019年度東京大学柏キャンパス一般公開の様子)



自動運転技術を用いたSustainable Mobility(仮称) フレームワークの体制



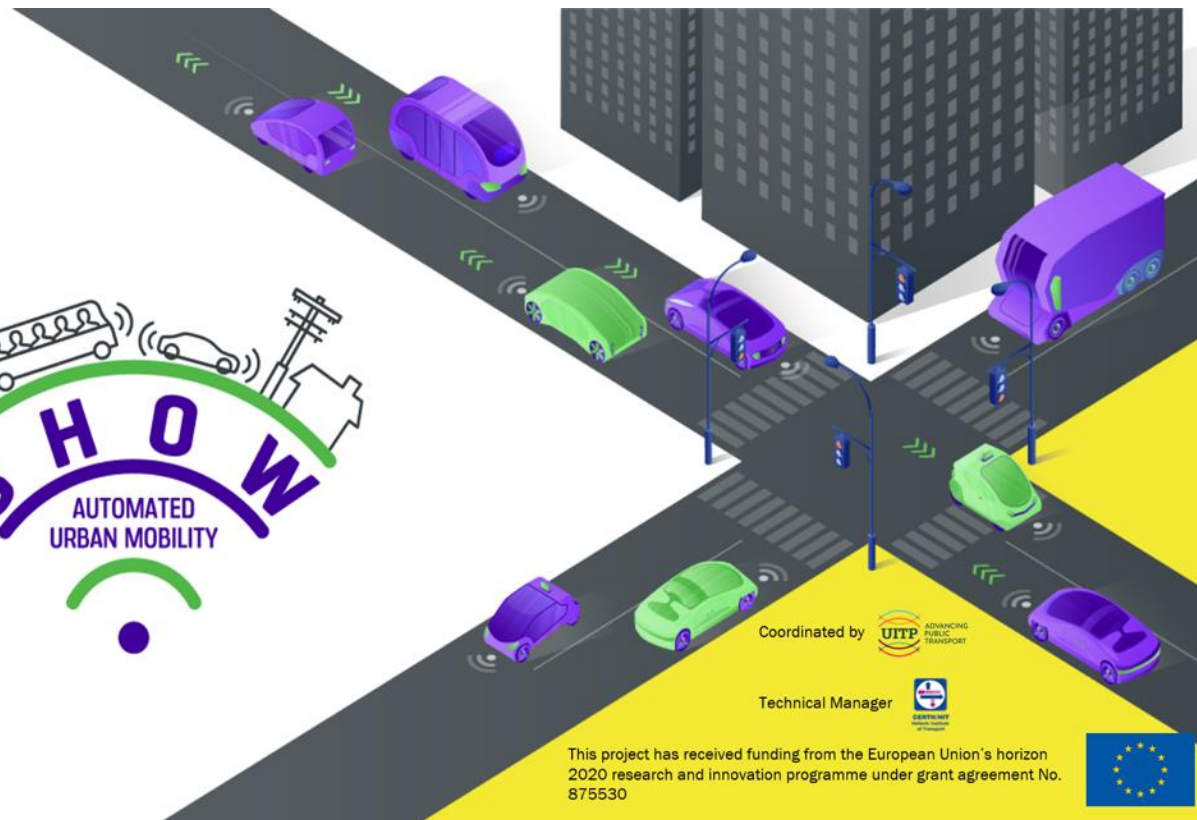
Level 4 モビリティサービス実用化検討会



国際連携活動～欧州SHOWプロジェクトとの連携～

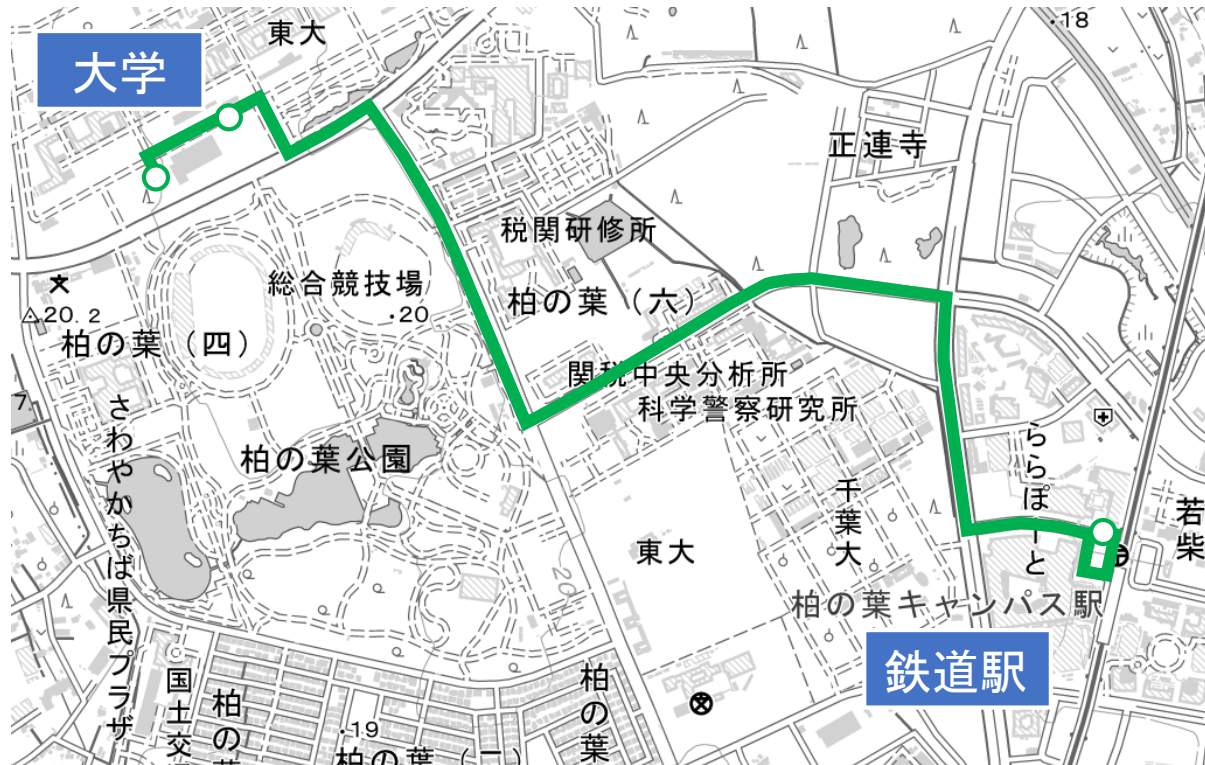


- ITS Japanと連名でNDAを締結
- 具体的な連携項目につき議論を開始



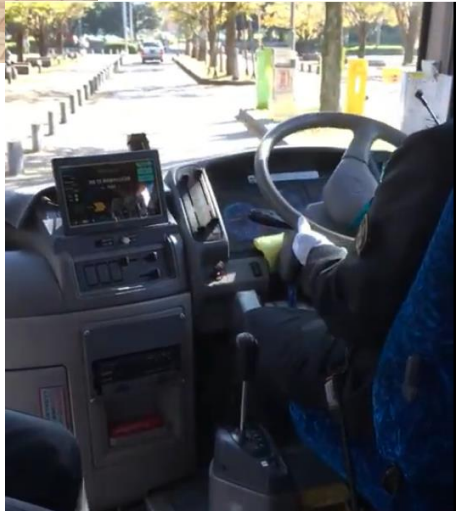
自動運転バス長期営業運行実証実験(柏市)

- 2019年11月1日から長期に渡る運行



※国土地理院の地理院タイルに実証実験ルート(緑線)を追記して掲載

自動運転バスで駅と大学を結ぶ



通信型ITS実証プロジェクトの取り組み(広島市)

実験車両・実験箇所

◆路面電車4両



支援モニタ(HMI)



760MHz・GNSSアンテナ



車載装置



◆路線バス3台



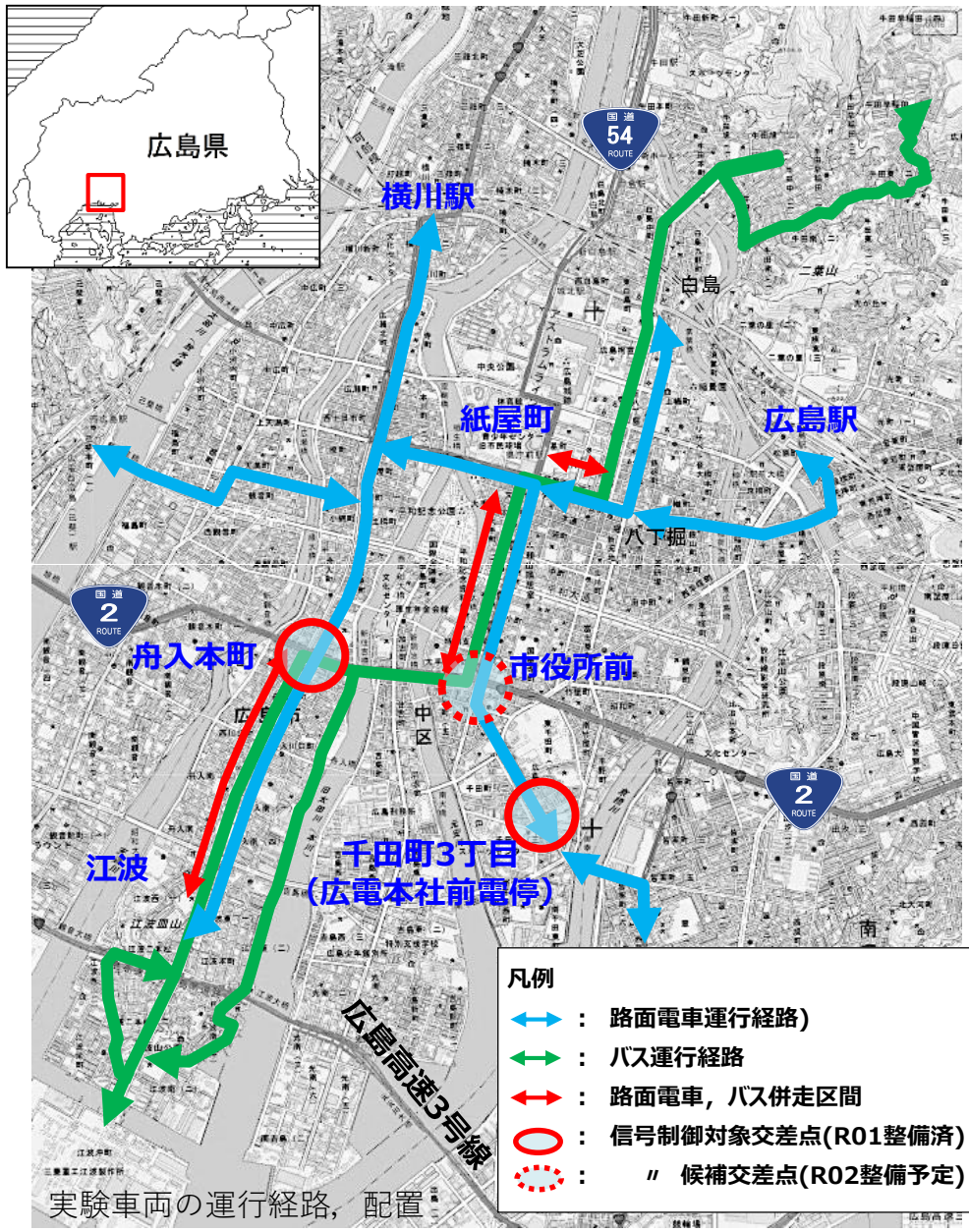
車載装置



支援モニタ(HMI)

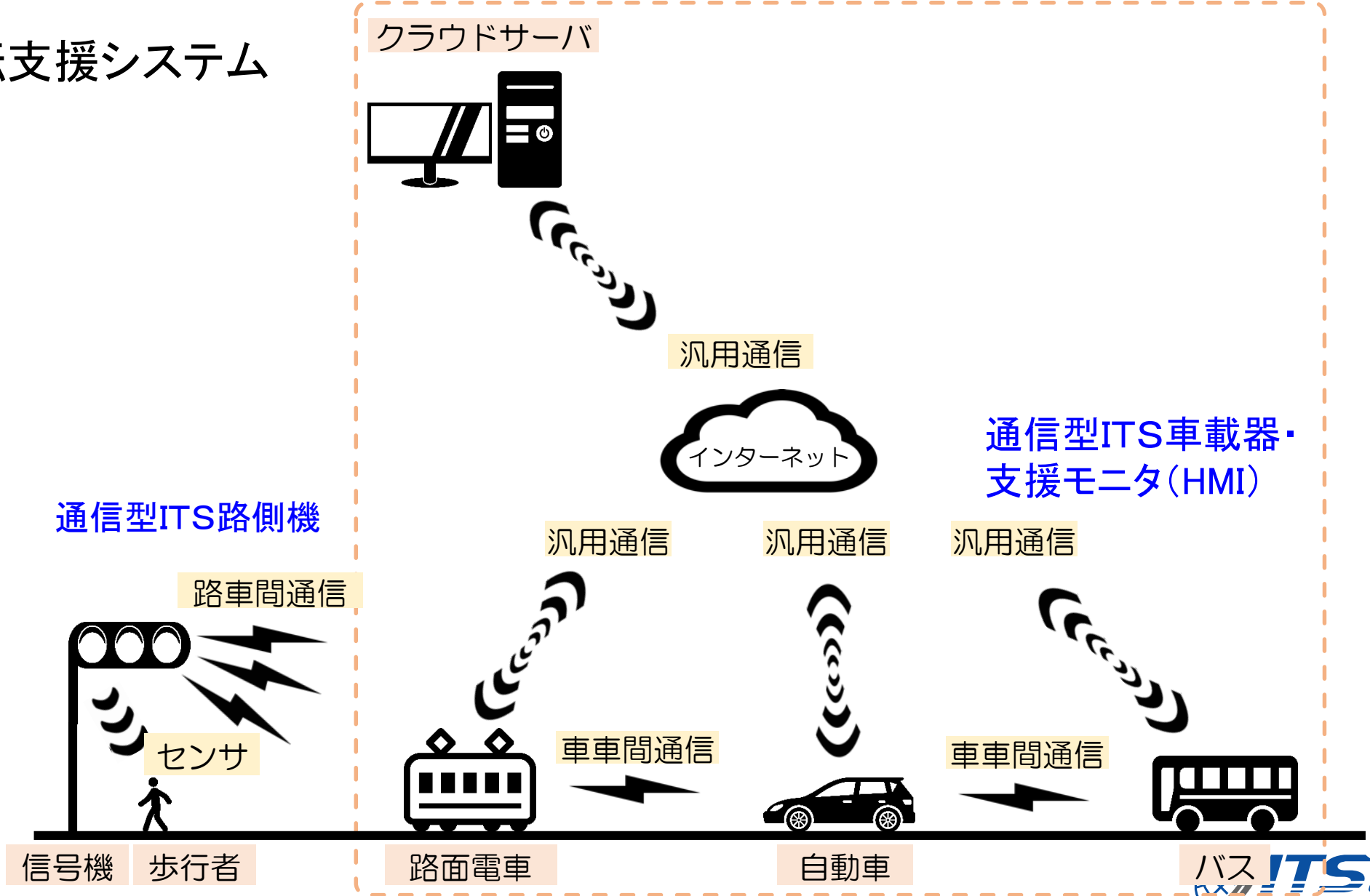


760MHz・GNSSアンテナ



通信型ITS実証プロジェクトの取り組み(広島市)

安全運転支援システム イメージ

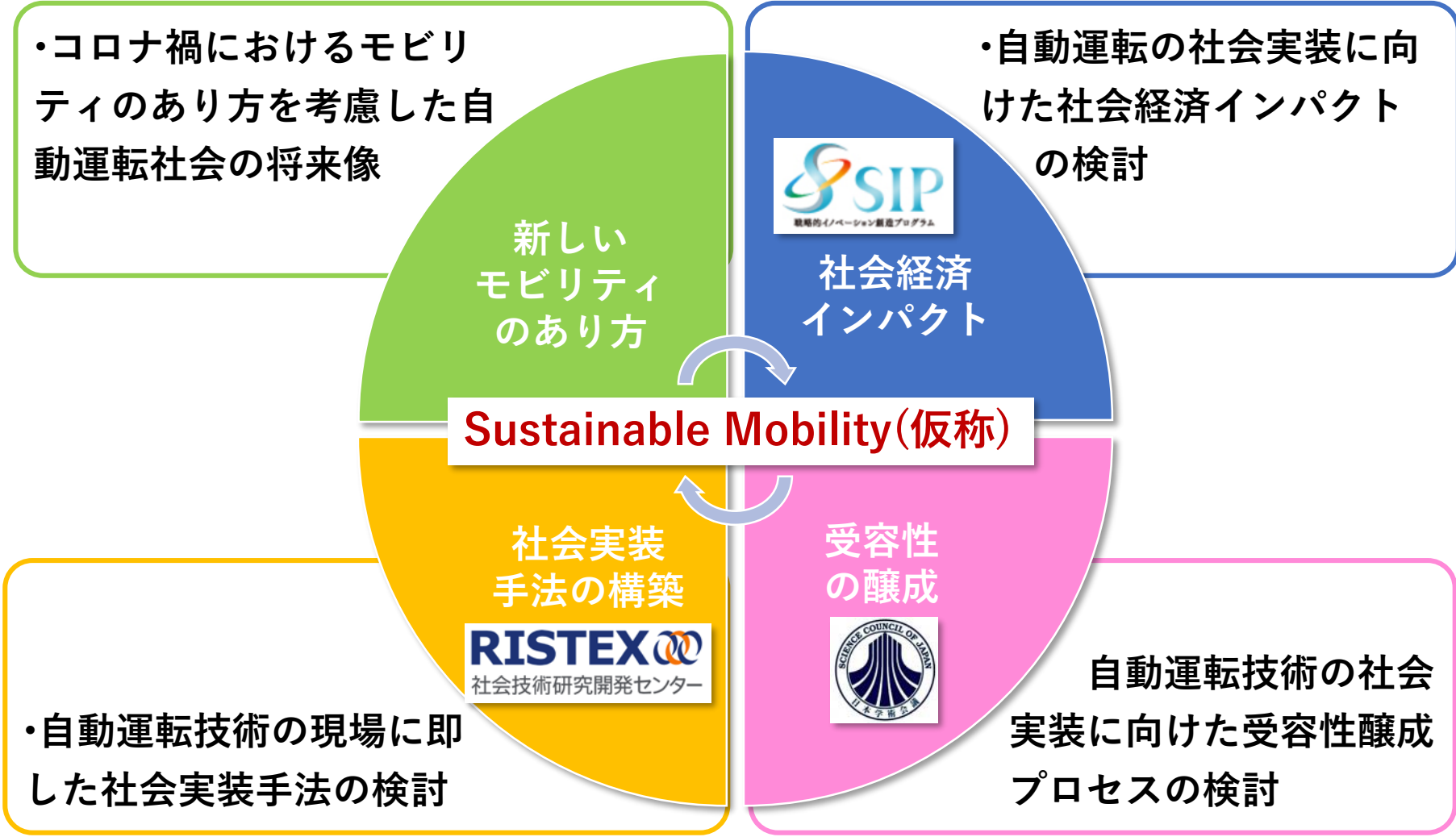


出典: 通信型ITSによる公共交通優先型スマートシティ構築事業 資料(令和2年10月)





自動運転技術を用いたSustainable Mobility(仮称) フレームワーク





ポストコロナに向けたモビリティ・ビジョン

提言

- 需要平準化に向けた取り組みとそれによって発生した余裕の活用
- 公共交通事業における公的主体の一層の関与
- 新たな移動サービスの技術開発・普及導入とMaaSによる統合型モビリティサービスの実現
- 物流の効率化，生産性向上に貢献する技術開発，制度設計
- 依然として存在する移動需要への対応

上記施策の中には，従来，実行したくてもできなかったものも少なくないが，感染症対策に端を発する社会の大規模変化は，こうした諸課題の解決を一気に進める好機である。

まとめ



- Mobility Innovation の実現を目指し学学連携を進めるため、UTmobl、モビリティ・イノベーション連絡会議を設立
- 連携推進のためモビリティ・イノベーション連絡会議を通してSustainable Mobilityの取り組みを推進
- 実装された自動運転の維持にはエコシステムの構築が重要
- 柏市や広島市で実証実験を実施